

令和7年度
在イラン日本国大使館附属日本人学校
学校経営方針



令和7年4月



確かな学力を持ち、これからの社会で求められるグローバル人としての素養をもつ児童生徒の育成

めざす
児童生徒の姿

- ◆いつもあかるく元気な子
- ◆最後までやりぬく子
- ◆やさしく思いやりのある子

非認知スキル育成

- あたたかい心・やさしい行動
- 学ぶ楽しさの実感
- 自信・自己有用感
⇒存在感・夢「やればできる」
- 失敗しても折れない心
⇒失敗を活かした新たなチャレンジ
- 互いの良さが出せるコミュニケーション能力

認知スキル育成

- 自分や学びの形成
自ら思考⇒判断⇒行動⇒振り返り
- 課題を発見し、分析し、行動する力
- 他者の考えを受け止めたり、批判的に考えたりして、自分に役立てる力
- 役割の自覚と遂行
→自分のため・人のため・社会のため
- グローバル社会で必要なスキルの育成
英語、ペルシヤ語、SDGs・プログラミング教育



【めざす学校像】

- 子どもを信じ、能力を最大限引き出す学校
- 聴き合い、対話し、学び合いのある学校
- 「自信」と「考える力」を育てる学校
- 家庭・日本人社会から信頼される学校

【めざす教師像】

- 子どもに寄り添い切れる教師
- 子どもに確かな力をつけるために、指導力を高め、協働できる教師
- 家庭や社会の声に耳を傾け、連携して教育課題の改善に努める教師

めざす学校と教師の姿

1 子どもに寄り添い、能力を最大限引き出せる学校

～学校・学習が楽しい～

(1) 「学校が楽しい、学習が楽しい」と感じる児童生徒の増加

学校は、子どもたちの未来を創るところです。そのためには、誰もが安心して学べる学校・教室であることが大前提です。私たちは、すべての子どもが、行きたくなる学校、したくなる学習を創っていきます。

- ◆振り返りの時間の確保による「わかる」「できる」の実感
- ◆日々の教師の姿・まなざしの意識化
- ◆異学年交流授業の実施
- ◆全校ランチタイム



日々の教師の姿・まなざし

- まずは「あなたはどうしたい」と投げかけ、その子の意志、考えを大切にしましょう。
- 非言語を見とり、以前と比べた成長を言語化して伝えましょう。
- 「楽しいなあ」と声に出し、笑顔を大切にしましょう。
- 職員室では子どもを主語にした会話をしましょう。

(2) 個々の良さ“オリジナリティ”が大切にされる教室

それぞれの子どもの持っている可能性は無数であり、無限です。その可能性は、無条件で誰からも尊重されるものでなければなりません。

そのため、子ども自身が自己の良さ“オリジナリティ”に気づき、表現しやすい教室を創っていきます。また、子どもたちが周囲から大切にされると実感できる環境、体験を大切にしていきます。

- ◆特別支援教育の視点を全校で展開
- ◆個々の“オリジナリティ”を認め合う教室経営
- ◆個々の良さ、可能性を尊重した職員の情報交換

【指標】「学校は、児童生徒一人一人の良さや悩み、問題等を的確に把握し、それぞれが自己実現へ向けて生き生きと活動できるよう働きかけている」と回答した保護者の割合：80%以上

2 家庭や社会と連携し、信頼される学校

～支え合い・助け合い・つながり合い～

(1) 外部機関、外部人材との連携・活用

どのような子どもを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンは、家庭、日本人社会と共有し、行動を共にすることが大切です。そのため、保護者会、学校運営委員会を通じて、保護者、在イラン日本人の声を活かしていきます。

また、“イランにいるからこそできる”活動を大切にするため、積極的に外部機関、外部人材の活用を進めます。

- ◆学校運営委員会の開催（年5回）
- ◆保護者茶話会の開催（年3回程度）
- ◆外国人学校との交流
- ◆宿泊学習・遠足の実施
- ◆イランに関係するゲストティーチャーの招聘



(2) ホームページを活用した積極的な情報発信

めざすべき教育の姿や学校が抱える課題については、家庭、日本人コミュニティとともに考えることが必要です。

そのため、情報を積極的に発信します。

- ◆メールとホームページを中心にした情報発信
- ◆校長室通信をほぼ毎週配信



【指標】「学校は、保護者と連携しながら教育活動を進めることができている」と回答した保護者の割合：90%以上
「学校は、保護者に対して、教育方針や日常の教育活動について、適切な情報提供を行っている」と回答した保護者の割合：90%以上

3 指導力を高め、協働できる学校 ～仕事・職員室・学校が楽しい～

(1) 「協働」「創造」「喜び」を大切にした職員組織

子どもたちに、学び合い、支え合いを指導するには、我々教師自身がその姿にならなければなりません。私たちは、共に学び、共に支え合い、仕事を楽しむ職員組織を創ります。また、自分の得意なこと、自分らしさを発揮できる職員組織であり続けます。

- ◆気づいた時に気づいたことをする姿勢
- ◆子どもの悩みや自分の悩みを職員室の悩みにする姿勢
- ◆オンデマンド映像、オンライン研修を活用した校内・自己研修の実施
- ◆現地理解研修の実施（年2回程度）



(2) 先生のやる気やゆとりを生み出す業務改善

子どもたちに向き合うゆとりを創るために、業務改善がこれまで以上に必要です。そのため、既存のシステムにとらわれない、効果的な時間の使い方について考えていきます。また、積極的にデジタル活用によって業務改善を図ります。

- ◆会議のペーパーレス化
- ◆タブレット等を活用した情報共有システム
- ◆定時退勤日（毎週水曜日）の設定
- ◆情報発信、保護者連絡の電子化
- ◆書類の押印廃止

【指標】「学校は働きやすい職場になっている」と回答した教職員の割合：90%以上

自律する子の育成

～自分で考え、判断し、一人でも行動する～

1 自分で考え、判断し、行動できる力の育成

◆チーム担任制（4年生以上）



チーム担任制で期待する効果

○いつでも誰にでも相談できる体制

○担任まかせにならない当事者意識

⇒個々の自主・自律心の育成

「まずは自分たちで考えよう！」

⇒自信・自尊心の向上

「自分たちでもできる！」

◆教科担任制（3年生以上）

◆自学自習できる力を養う授業構築

e) 自由進度学習を取れ入れた無学年制カリキュラム

興味関心や問いから始まる授業

児童生徒がファシリテートする授業

AI教材『eライブラリ』を活用した家庭学習

2 チャレンジ精神の育成

◆テニス学習、水泳学習、雪の活動の実施

◆百人一首大会の開催

◆漢字検定、英語検定、数学検定の実施



【指標】「将来めざしてみたいことや日々の生活の中で目標に向かって活動することができた」と回答した児童生徒の割合：90%以上

「家庭での学習にしっかり取り組むことができた」と回答した児童生徒の割合：70%以上

オリジナリティの育成

～独創性、自分らしさを磨き、多様な価値を認め合う～

1 確かな学力の育成

- ◆教科担任制（3年生以上）による授業
- ◆AI教材・ドリルを活用した授業 ※再掲
- ◆無学年制自由進度学習 ※再掲
- ◆朝のドリル・読書タイム
- ◆模試、学力テストの定期実施
(小学部年3回・中学部年5回以上)

教科担任制で期待する効果

- 教科特性を活かした授業の提供
- 学年内容にとらわれない学習メニュー（発展メニュー 振り返りメニュー）の提供
⇒「みんな同じことを、同じペースで、同じようなやり方」からの脱却
- 教材研究の時間短縮

2 イランに学び、イランを語れる児童生徒の育成

- ◆現地スタッフによるペルシャ語学習
- ◆宿泊学習、遠足による現地理解教育



3 課題を発見し、分析し行動する力の育成

- ◆『テヘランタイム』における課題解決型学習（PBL）
- ◆家庭学習を発展させた個人研究の発表会の開催
- ◆AI教材・ドリルを活用した自己分析
- ◆プログラミング教育の推進



【指標】「それぞれの授業で自分の学力を伸ばすための取り組みができた」と回答した児童生徒の割合：90%以上

つながれる子の育成

～他者に関心を持ち、他者の考えを自分に活かす～

1 他者とうまくつながる力の育成

- ◆「元気な声で、人より先にする」挨拶の日常化
- ◆ALT を活用した英語教育
- ◆図画工作・美術科でのイメージ教育
- ◆日本国内の学校、他国の日本人学校との交流
 - ※2023 年度実績
 - ・在イラン・コリアン・スクールとの交流会
 - ・ローマ日本人学校、クアラルンプール日本人学校、ジッダ日本人学校、栃木県立佐野市立小学校とのオンライン授業
 - ・兵庫県教育委員会主催イベントでのオンライン交流
- ◆異学年編成による清掃活動



2 他者の考えを受け止め、自分に活かせる力の育成

- ◆SDGs と関連づけた教材の開発
- ◆生徒会企画・運営の学校行事
- ◆外部機関との連携によるゲストティーチャーの授業 ※再掲
- ◆他者（他学年、地域、海外等）への情報発信



【指標】「あいさつをしっかりし、言葉遣いに気をつけて生活できた」と回答した児童生徒の割合：90%以上
「毎日の生活を、ルールを守り、思いやりの気持ちをもって生活することができた」と回答した児童生徒の割合：90%以上